海外研修視察報告書

平成３０年８月６日

溝口県議会議長　様

長崎県議会議員
前　田　　哲　也
川　崎　　祥　司

海外研修視察を実施しましたので、次の通り報告いたします。

１、日程　　平成３０年７月７日～平成３０年７月１０日

２、訪問国　　フィリピン

３、調査目的

〇フィリピンからの誘客に向けた定期便・チャーター便実現について

〇県の認知度を高めるための「旅行博」での県単独ブースの視察

〇外国人就労人材確保のため現地での就労送り出し機関との意見交換

４、調査事項

上記３、フィリンピンの観光施策、外貨獲得のためのＯＦＲの現況調査

５、調査結果

別紙により

６、調査により得られた成果および県政への反映方策

別紙により

〇旅行博での長崎県ブース視察

訪問日時　　２０１８年7月８日（日）１０：００～１２：００

今年２月のフィリピン航空との意見交換時、「長崎県の認知度が低い。７月に行われる旅行博で県単独ブースを出展した方がいい」また「旅行企画があれば現地の旅行エージェントを集めてもいいので説明会を開催したらどうか」との助言を頂き、持ち帰り知事に報告後に県当局と協議を行った。結果、特に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録」をメインに県単独ブースを出展した。我々は旅行博全体と県ブースの視察ならびにブースでの活動を手伝った。フィリンピンでも団体旅行から個人旅行へとシフトしていくなか、訪日観光の手段として今回視察した年２回行われる旅行博で「まずセールで売り出す往復の旅券を購入後に旅行行程・訪問先を決める」という形態があり、そうしたなかで本県の知名度を上げるということはとても肝要であると再認識したところである。日本ブロックの

なかでは他の自治体では岐阜県、北海道、沖縄県、鳥取県、神戸市、民間企業ではサンリオやドン・キホーテ、ホテル等がブースを出しており、岐阜県については常連であり他国の同種のイベントでも必ずブースを出展していると聞いた。後日の旅行エージェント訪問の際は岐阜県が大変人気であるということであり、やはりこの種の地道な活動の継続が大事であることがわかった。また前日にはＢｔｏＢの民間事業者が主体となった定期便の福岡空港着から長崎への誘客旅行プランの説明会を行った（１７社、３０人）この件についても官民連携での取り組みの継続性が問われる。いずれにしても長崎空港への定期便就航を目指す中で今回のような取り組みをもっと重点的に取り組むことで本県の認知度をあげることが先決であることがわかったので来年度の施策、予算編成に反映すべく今後担当部局に意見を述べ実行に移す。

○フィリピン航空

訪問日時　　２０１８年7月９日（月）１０：００～１１：１０

訪問先　　フィリピン航空　　Maria Sheila T Tomas 副社長
　　Dato’ Bernard Francis
　　Bryan L. Ang
　　Shiela Lim Yuliong
　　Deane Borleo
　　ボードオブエアライン Genaro “Bong” Velasquez

訪問者　　長崎県議会　　川崎祥司、前田哲也
　　長崎県文化観光国際部国際観光推進室　土井口室長、内藤課長補佐
　　長崎自動車㈱　久野隆紹取締役、森下光年執行役員、山口江梨氏
　　長崎空港ビルディング㈱　　企画経理部　中村副部長、一瀬文香氏

訪問目的　　フィリピンからの誘客に関する意見交換

協議内容

世界遺産登録を契機とした同国からの誘客施策に対し、去る２月１３日フィリピン航空を訪問し、長崎空港へのチャーター便ならびに定期直行便就航について要請を行ったところ、①７月開催のＴＭＥ旅行博への長崎県単独出展、②同国旅行代理店向け商談会の開催、③ファムツアーの開催についてアドバイスを頂いていた。

この間、官民と連携を図り、①ならびに②について開催出来たことを報告するとともに、再度直行便の就航について意見交換を行った。

フィリピン航空からは、「福岡便の利用が芳しくなく、そこに新たに長崎便を投入することは現実的ではなく、むしろ福岡から１時間半程度の距離なら、福岡を起点に周遊させるツアー商品の造成が望ましい。それに際し、福岡・長崎間の交通費補助があればパッケージ商品を検討してもいい。長崎への直行便は、この福岡からの流れを確立させた後、検討

した方が良い」との意見があった。

またプロモートは継続が大事とし、他県の動きとして、岐阜県が「白川郷と名古屋から近距離」を前面に、年２回の旅行博出展とフィリピン国内約５００の旅行代理店を頻繁に訪問している実績を紹介して頂いた。

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録を受け、東南アジア唯一のキリスト教国であるフィリピンからの誘客促進にあたり、今回の訪問調査において、現実的な施策を検討できる多くの情報を得ることができた。国民の旅行志向を的確にとらえ、効果的な支援を持ってインバウンド獲得に期待が持てる。今次、民間企業２社に同行頂いたが、今後は県も交えながら民間同士の連携強化で誘客施策を推進すべきと考える。また適切な支援について県に施策の構築を促していきたい。

○外国人技能実習生送り出し機関

訪問日時　　２０１８年7月９日（月）１３：００～１４：40

訪問先　　ＰＲＵＤＥＮＴＩＡＬ　ＥＭＰＬＯＹＭＥＮＴ　ＡＧＥＮＣＹ

ディレクター　藤本哲児

サクラ日本語学校　　コンサルタント　　三宅晴彦、酒井善彦

訪問者　　長崎県議会　川崎祥司、前田哲也

長崎自動車㈱　久野隆紹取締役、森下光年執行役員、山口江梨氏

訪問目的　　外国人技能実習生送り出し機関との意見交換

協議内容

フィリピンにおける、海外活躍人材の育成状況について意見交換と現地視察を行った。

同機関は長くフィリピンにおいて、人材育成に取り組んでおり、日本をターゲットとしたエージェントとして１５％のシェアで国内屈指の規模を誇る。ここ３年間で１０００名以上を送り出している。スタッフは、日本人１０名、現地７２名だが、日本語はＮ２～３クラスで上級レベルの力を持っている。

研修実態としては、高校卒業以上とし、大学卒業も２５％～３０％を育成しており、連日１５０名から２００名を面接している。６００名程度在籍。

４か月の日本語研修を厳しく行い評価も高いが、技能は日本で学ばせることとしており、語学研修に特化している。費用は研修生負担で１．８万円～２万円。

入国までの流れとして、日本の受け入れ機関と契約し、面接会を行った後、入国となり８か月ほど要す。

日本と他国との違いでは、日本が残業規制を行う方向であり、収入増が厳しい傾向にあること、また提出書類がサウジアラビアは８枚なのに、日本は５６枚求められる。さらに、滞在期間を延長するため、日本語のレベルアップも求められる等の指摘があった。

また、実際の日本語研修状況を視察したところ、本人たちが出国後困らないように、あいさつの重要性を理解させ、会話も元気に行っている姿が印象的だった。

外国人技能実習制度は、その本質から人手不足を補うものではない。しかしながら県内の中小企業振興に優秀な人材の確保は不可欠であり、同制度を活かしつつ、企業課題を解決できる施策を講じ、県に提案して参りたい。

○旅行代理店

訪問日時　２０１８年7月９日（月）１６：００～１７：００

訪問先　ディスカバリーツアー株式会社　常務取締役　星野峰幸
取締役営業本部長　植田俊和
他スタッフ４名

訪問者　長崎県議会　川崎祥司、前田哲也
長崎自動車㈱　久野隆紹取締役、森下光年執行役員、山口江梨氏

訪問目的　旅行代理店との意見交換

協議内容

フィリピンにおける旅行志向と誘客施策の効果について意見交換を行った。

同社は、７月５日～８日開催の TME 旅行博にも出展していたが、２年前より銀行系主催の旅行博が開催されており、本年も来場者が減っていたとの評価だった。

以下、訪日客促進に係る意見を頂いた。

・訪日はＦＩＴ中心に増加している。ゴールデンルートと言われる、東京・名古屋・大阪から段々分散してきているようだ。
・とくに人気があるのは、映画のロケ地だ。買い物も旺盛である。
・効果的な戦略では、県単体で取り組むより、北部九州など大きなくくりで訴求したほうが良い。またインセンティブツアーは不動産系、保険系が活発で年４回程度実施しており、そのうち１回は日本が入っている。期間は４泊５日で、予算も多く掛けている。
・今後はファムツアーを実施し、売れる商品の造成を図り、プロモーションを掛け、３～４か月販売のパターンを尊重した方がよい。

フィリピン航空でもアドバイス頂いたように、継続的な営業活動が不可欠であり、流れを構築するまで地道な行動が求められる。

ファムツアーが効果的との共通意見もあることから、県への施策提言を行っていきたい。

ACCESS to
NAGASAKI
JAPAN
Tokyo
Incheon
SOUTH KOREA
Osaka
Fukuoka
Nagasaki Airport
NAGASAKI
NAGASAKI NIGHT VIEW
CHINA
Shanghai
Taiwan
NAGASAKI
Highway Bus
JR
Fukuoka
Manila
Manila
PHILIPPINES
Cebu
Nagasaki Prefecture

JNTO
Endless Discovery
JAPAN
JAPAN
JNTO

WAKAYAMA PREFECTURAL GOVERNMENT

Philippine Airlines
Philippine Airlines
EXPLORE THE WONDERS
Malaysia

IATA
PTAA
plantationbay.com

インド・バンガロール視察報告書

平成 30 年 8 月 7 日

長崎県議会議長
溝口　芙美雄　様

長崎県議会議員
山本　啓介

インド（バンガロール・デリー）を視察いたしましたので、
次の通り報告いたします。

1. 日程　平成 30 年 7 月 16 日～平成 30 年 7 月 27 日

2. 訪問国　インド（バンガロール・デリー）

3. 調査目的
IT 産業人材・雇用対策・人材交流・留学

4. 調査事項
中小企業の状況（新産業及びものづくり産業）日本語教育の現場・留学送り先大学視察及び意見交換・IT　企業との意見交換・関係政府・団体との意見交換。

5. 調査結果
（別紙により作成）

6. 調査によって得られた成果及び県政への反映方策
○各企業及び関係団体、関係政府担当者との意見交換で得られた情報を基に県内関係企業・団体と共有し「友好協会（仮）」の設立について取り組んでいきたい。
○情報通信産業団体の関係者を長崎県へ招聘し、勉強会の開催及びインド関係者との情報交換の場を民間企業と連携し開催する。

インド視察

バンガロール・デリー

2018年7月18日～7月27日

長崎県議会議員

山本　啓介

概要

今回のインド視察は、本年２月に続き僅か半年のうちに２度目の渡印となる。

その理由は前回渡印の際に活動し、関りを持つことができた「情報通信産業」や大中小企業との意見交換を通じて共有できた「長崎県の状況」と、「インド中小企業の課題や大卒者の就職に関する課題」などを元に以下の点についてスピード感をもって更なる人脈をつくるためである。

①大学との関係構築

②情報通信産業関連団体及び中小企業

③ものづくり工業団体及び中小企業

④関係政府責任者

TrinityNDT

NDT&Welding Inspection,Training&Certification

2018/07/18

, Naptha Resins Compound, Near Sub-Registrar Office, Site No.12, 4th Phase Near, 2nd Stage, Peenya Industrial Area Phase IV, Peenya, Bengaluru, Karnataka 560058

CEO Ravi Kumar 他役員の皆さん

非破壊検査や溶接。・溶接検査などをメインに展開している中小企業。

航空関連や宇宙関連などその対象は幅広く、政府関連などを含め仕事を請け負っている。

この企業からの説明では、「OJT」の実践が大変興味深いものだった。学生や若い世代のエンジニアの学びの場でもあるこの企業はその両方を社屋に構え、人材確保にもつなげている。

Unnathi CNC Pvt

CNC Components Manufacturer

Ceo 役員幹部ほか

2018/07/18
487, D1 & D2, 13th Cross, 4th, Peenya III Phase, Peenya, Bengaluru, Karnataka 560058

エンジニアリング、航空宇宙、自動車、農業および工作機械産業向けの精密機械部品および組立部品の製造などを早い時期から手掛けてきている、インドでは老舗の企業です。

材料として炭素合金、ステンレス鋼、銅、アルミニウム、真鍮などを用いこれらを加工することを専門としている。

彼らが受注している仕事の中には、設計図のみのやり取りでこれらがなんのどの位置におかれる部品であるかなど、全く説明もされぬまま仕事を終えることもあるという。

多くのモノづくり企業が集積するこのエリアでは、仕事が溢れておりその相手先はもちろんインド国内にとどまらない。彼らの望みは、日本との技術の連携や人材の交流、さらには仕事のシェアや情報の交流だという。

Peenya Industries Association

2018/07/18

Peenya Trade Centre, 1, 1, Peenya, Peenya, Netaji Nagar, Peenya, Bengaluru, Karnataka 560058

会長・理事ほか

1978 年に設立したものづくりの産業協会は、現在 6000 以上のメンバーが所属しており、小規模産業の振興と成長のために政府や州政府のとの連携を果たしている。

彼らに対して私は「長崎県が置かれている状況→人口減少・工業メイン企業の衰退・新産業への転換」などを説明し、彼らの取り組みと何かしら連携が生まれないかと投げかけてみた。彼らは日本の技術力に対して「ブランド」を認識しており、私からの互いの情報や技術、人材の交流を目指した「組織」の構築の提案に対して「同意」してくれた。

Synthetic Rubber Products Pvt.Ltd

Rubber Products Manufacturer

2018/07/18

#C-81, 2nd A Main Road, 2nd Stage, Peenya Industrial Area, 2nd Stage, Peenya Industrial Area Phase IV, Peenya, Bengaluru, Karnataka 560058

合成ゴム製品メーカー。自動車業界や航空機などにおけるゴムベースの部品を作成している。多くが日本のメーカーから部品を受注している。

社内は規律を大変重要視しているようで、その雰囲気は日本の企業などに類似している。トヨタの「kaizen」を実践していた。社長はチャンスがあれば日本の中小企業と連携を図っていきたいとの強い意志があった。

自身の仕事に誇りを持っており、日本に支店を出したいとの思いも聞かれた。

Zenith Ppurecision

Automotive and Aerospace

2018/07/18

Shop No. 94, 7th Main, Phase 3, Peenya, Bengaluru, Karnataka 560058

自動車・航空宇宙関連の精密工学を専門する企業であり、インド国内はもとより海外の多くの航空宇宙会社に製品を供給している。

日本への進出に非常に熱心であり、「友好協会」などの設立に対しても積極的に意見を述べていた。ここでも「KAIZEN」が導入されており、日本のモノづくりに対するリスペクトを感じられた。

Bangalore Chamber of Industry and Commerce(BCIC)

バンガロール商工会議所

2018/07/18

バンガロールにあるカルナータカ州における大規模な産業を代表する商工会議所であり、現在 750 の会員が所属している。
IT、バイオテクノロジー、エンジニアリング、コンサルティング、法律事務所などの企業が所属している。
彼らとのやり取りは大変有意義なものになった。
彼らは「日本は国と国、大企業と大企業との関係はこれまでサポートしてきたが、中小企業に対しては何もしてくれない。ジェトロもそうだ。」との思いが強く「日本とつながりを持ちたい」と強く考えている分、これまでの紙ベースのあらゆる友好的なセレモニーに飽きている状況のようだった。私の方から、「長崎の課題や日本の課題とインドの可能性」について協力を求めると、理解を示してくれた。
「友好協会」の組織構築に協力したいとの約束を取り付けることができた。

中小企業と中小企業、地方と地方の連携と重要性、ニーズを確認できた。

Silver Peak Global Language Centre

日本学校

2018／07／19

41, 8th E Main Rd, 4th T Block East, 4th Block, Jayanagar, Bengaluru, Karnataka 560011

レベル N5 の教育を提供しているこの日本語学校は 4 名の教師によって指導がなされている。生徒たちの日本へのモチベーションは高く、規則正しい生活が求められる日本の教育環境になじむよう、生活態度や授業態度などの注意もなされていた。

India Electronics &Semiconductor Association(IESA)

インド電子・半導体協会

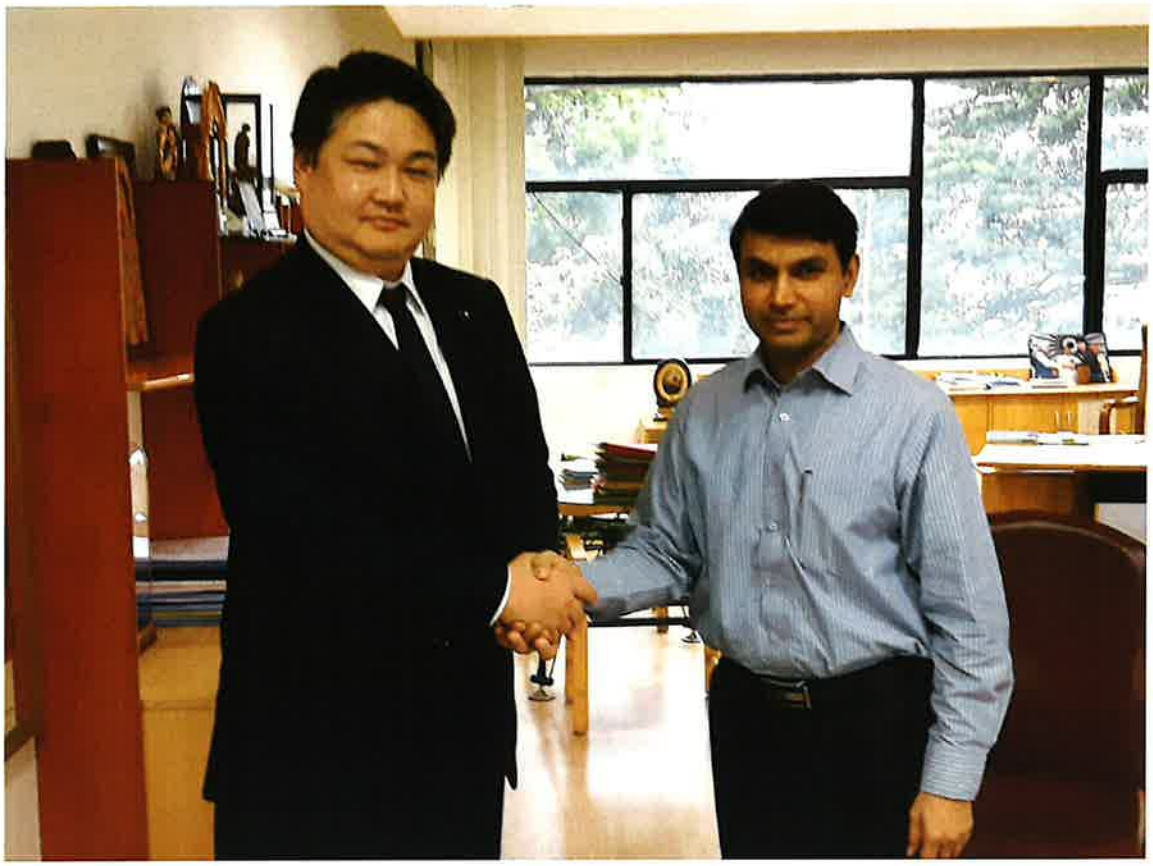
2018／07／19

政府や学会などとの連携を果たし、インドの産業に大変重要な役割を果たしているその取り組みは、世界市場向けのインドの高品質の製品を輩出している。

代表は、日本の技術の高さに敬意を表しつつこの分野において長崎県にあらゆる可能性を感じているとの見解を述べた。

近々長崎を訪れる可能性を示唆した。

「友好協会」の設立に対して期待しており、協力したいとの約束をもらった。



Gavernment of Karnataka

Commissioner for Industrial Development and Director of Industries and

Commerce,Government of Karnataka

2018/07/19

産業開発庁長官　ジャイナ・ダーパン氏と会談
若い国の官僚は前日にデリーで行われた全国責任者会議の席上で「長崎県」の名前を聞いたとのこと。雇用についてのテーマでのミーティングで「ミゾラム州」の代表は長崎県壱岐市へ多くの若者を送っていると説明し喝さいを浴びたそうだ。その島が私の故郷だと知った氏は「私に何かイディアをください。必ずそれがうまくいく予算や制度をつくるから。それが私の仕事なのだ」との趣旨を語った。
氏は会談の間、長崎県と日本の可能性を探ることに非常に熱心であった。
二国間のやり取りにおいては、企業だけの誘致ではなく「教育」「文化」なども含めて取り込むことが重要だと述べた。
「友好協会」の設立に対しての協力について前向きな助言をもらった。

情報通信産業企業との意見交換

2018／07／20

バンガロール「プライドホテル」93, Richmond Rd, Langford Gardens, Bengaluru, Karnataka 560025

28 社の企業の参加のもと私からは「長崎県の課題と日本の課題」「県知事が目指す新産業」「日本における人口減少と人材不足について」「留学生に期待する日本の企業の状況」などについて説明を行った。

多くが、「友好協会」などを中心とした「地方と地方、中小企業と中小企業」の取り組みや「長崎県は日本の西の端であるが、東アジアの中心でもある、拠点を構えないか」「長崎県でスモールスタートを決めよう」　などの発言に質問があった。参加してくれた企業の多くは日本に支店を構えることや進出することにとても熱心だった。

留学を考える大学との意見交換（南インド）

2018／07／20

バンガロール「プライドホテル」93, Richmond Rd, Langford Gardens, Bengaluru, Karnataka 560025

12 の大学から学長や理事長など大学関係者が参加して行われたミーティングにおいて、私は「日本では優秀なインド人材を求めている」「留学生をサポートするシステムの構築に努力すること」「多くの地域でそのような素地ができている」ことなどについて説明を行った。

参加者からは、安全な日本へ学生を送りたいという思いや、留学中のバイトなどについての質問が多く聞かれた。

「日本に送りたいんだ。日本の哲学や日本の文化に触れてほしい。もはや日本という国は優秀なブランドなんだ」との発言もあった。

留学生との交流やバイト先として「インバウンド対策」や「英語教育」「プログラミング教育」などとの連携など様々な可能性についての意見交換ができた。

Art of Living

Yoga for overall well-being

2018/07/21

21st Km, Kanakapura Rd, Udayapura, Bengaluru, Karnataka 560082

先日東京で面談したインドにおけるヨガの大家であり、国際社会における指導者である「シュリシュリ・ラビ・シャンカール」が開設した「アートオブリビング」の本部を訪問した。本人は世界ツアーの最中で会うことはできなかったが各指導者に大変熱心に説明をいただいた。宗教や慣習において、インドと日本は神道とヒンドゥー教など非常に似ている事柄多いとの説明があった。
健康や人生について考えるツアーなど、観光においてヨガが生かせる可能性について意見交換を行った。

Kiddypi

2018/07/21

First Floor, MSR Complex, #50/7, 39th Cross, 16th Main, Jayanagar 4th 'T' Block, 5T Block, 4th T Block East, Jayanagar, Bengaluru, Karnataka 560041
IT エレクトロニクスとロボテックスへの関心を誘発することを目指している。
プログラミングなどにおいて、子どもたちの教育環境に非常に素晴らしい教材を提供している。
子ども（5から7歳）たちに論理的に考えることを可能にする教材。
丁寧で正確な教育の段階を用意し、子供たちの成長に応じて自らが学び自らが作成していくことを学べる教材を開発している。
2020年から始まるプログラミング教育において大変重要なポイントが溢れていた。彼らは日本の取り組みを非難することはなく、当たり前のように根付いているインドの教育環境について淡々と「進化する教材」について説明を行った。「日本のことはわからないが我々はこうしてきたしそれは日々進化している」と。ぜひ壱岐市に来てほしいとお願いした。彼らの返事は悪くなかった。

Rapidd Technologies

2018/07/21

First Floor, MSR Complex, #50/7, 39th Cross, 16th Main, Jayanagar 4th 'T' Block, 5T Block, 4th T Block East, Jayanagar, Bengaluru, Karnataka 560041

バンガロールの情報通信企業

インド、スロバキア、セルビア、イングランドなどの４か国に技術を供給している。クライアントはメジャーな企業が多く、日々アイディアが求められている。彼らは日本に開発センターを設置することを熱望していた。

どこにいても企業は展開できるとのことで、アジアに広がる福岡県に近い壱岐市は大変魅力的な島であるとの認識を得た。

彼らに壱岐市の「テレワークセンター」や「生活環境」「企業誘致の支援」や「国境離島新法」などについて説明を行った。

引き続き日本での展開についてお互いに意見交換をすることを確認した。

Don Bosco School of Management

2018/07/22
2nd block, South-End Circle, No 1, 15th Cross Rd, 2nd Block, Jayanagar, Bengaluru, Karnataka 560011

ドン・ボスコ大学幹部との意見交換

長崎ウェスリアン大学と提携しているドン・ボスコ大学の理事長らと意見交換を行った。シルバーピークが提供するプログラムによって留学生は日本語を学び、長崎県は理系の優秀な人材を経費をかけることなく県内に獲得することとなる。しかしながら、これらに無関心な状況であれば、彼らは東京や大阪などの大都市の企業へと就職していくのだ。大学関係者は長崎県での就職についていろんなアイディアを出してくれた。インドの企業を誘致することもその一つであり、長崎県に人材の集積地ができることは日本国内の学生や企業にとっても良いことではないかとの意見もあった。

留学を考える大学との意見交換（北インド）

2018／07／23

Barakhamba Rd, Fire Brigade Lane, Connaught Place, New Delhi, Delhi 110001

南と同じような意見交換となったが、参加大学のうち Chitkara 大学とシルバーピークが連携の合意に至り、今後日本への留学などについて検討に入ることが決定した。「日本は安全である」との意見が多く、これまで中国やアメリカへ多くの留学生を送っていたが、是非とも日本へ送りたいとの意見が多く述べられた。保護者の参加もあり留学中のアルバイトなどについても熱心に質問していた。誰もが日本へ来たがっているのだ。

NASSCOM

2018／07／24

NASSCOM Campus, Plot No- 7-10, Sector 126, Noida (UP) 201303, India,
Raipur Khadar, Sector 126, Noida, Uttar Pradesh 201303
全インド情報通信産業協会
SENIOR DIRECTOR Mr.GAGAN SABHARWAL

先日福岡市で行われたナスコムのイベントにおいて面談したシニアディレクター、ガガン氏と再会した。彼は率直に話した「日本においては今地方に働きかけしている。広島県が先行している。企業と人材の集積を図るのであれば、暮らす環境づくりは非常に大事となる。例えば住居、例えば教育。インターナショナルスクールなどは今や必須となってきている。」といった趣旨の話を聞かせてくれた。

今後、「友好協会」設立について彼と連携を図っていく。

MSME TDC

2018/07/25

Foundry Nagar, Agra, Uttar Pradesh 282006

中小企業庁（MSME）は 1985 年アグラの地で設立された職業訓練のための施設である。溶接、電気工学、システムエンジニア、太陽光エネルギー、など様々な職業についてのスキルが学べる。我が国の 100 年時代構想においては学び直しや、現行のステージ順を変更する検討がなされることを考えると、このような施設は重要であり、だれもが意欲的に学べ、次の職場において技術をもって臨める環境づくりは行政の果たす役割であると痛感した。

Gla University

2018／07／25

Jait, Uttar Pradesh 281406

工学技術研究所・応用人文科学研究所・経営管理研究所・製薬研究所
ポリテクニック大学・教育学部・法学研究研究所

この大学は日本に大変興味を持っている大学の一つだ。

大学の最後の一年を長崎において日本語を学びインドの学生が日本で活躍することを期待していた。

意見交換の中で文化や宗教の面で日本とインドに類似点が多いとの発言があった。また、インドと異なる点においては、日本の安全性の高さや衛生面や交通など、暮らしの水準の高さなどに対して信頼を寄せる発言が多く聞かれた。

総括

かつてイギリス統治であったインドは、一定の経済発展を果たし躍進する企業がイギリスを目指したそうだ。その際、多くの企業が大都市であるロンドンを目指したがそのほとんどが撤退し、ウェールズなどの地方から入った企業は今でも残っているとのことであった。

本県は日本の西の端にあるが、東アジアにおいてはその中心に位置していると言ったら言い過ぎだろうか。かつて九州を中心とした同心円の中に人口がどれだけいるかといった資料を見たことがあるが、空路の所要時間などを考慮するならば、まさしく立地条件が良いといえると思う。

今回、インドにおいて中小企業、モノづくり産業、半導体、情報通信産業などのそれぞれの団体、それぞれを所管する政府、州政府、そして大学などを訪問した。彼らに私が伝えたことは「日本における人口減少という課題と長崎県の産業の変化」そして「地方には課題を乗り越えるための支援が多くあることや多くのインドからの留学生が長崎にすでにいるという事実」である。

私がインドにアプローチする理由は他にあるが、その展開の中にある経済については、今やインドを重要視すべきとの考えは覆らない。軽視しているのか眼中にないのか、そのどちらであっても目が向いていないのはアンテナがたっていないか、情報をつかんでいないからだと思う、企業であっても行政であっても。インドへのベクトルは否定しない、しかし、今の長崎が自然にそうなる可能性は少ない。であるのならば利を確認しつつ始まる関係や組織構築が標準かもしれないが、ここはひとつ、組織を作って互いの情報を目の前に並べてみるという事を先に行ってもいいのではないかと考える。

インドにおいてもっとも聞かれた意見は「国と国、大企業と大企業は政府もアテンドするが、中小企業に対してや日本の地方に対してはほとんどない。いわば何もしてくれない」といったものだ。

彼らは東アジアの拠点として日本を考えている、だからこそ東京や大阪などの幾度かチャレンジしてあきらめている。どこでも進出に大変意欲的な中小企業ばかりだった。

私の提案は「長崎からのスモールスタート、長崎が日本のウェールズになる」といったものであったが、彼らに受け入れられたと感じている。

しかし、長崎県行政はインドとのかかわりは皆無に等しい状況であるのでスピード感が期待できないと考える。まずは、民間で見えるものを高く掲げていき、民で走るので官が支える形をつくっていきたいと思う。

海外研修視察報告書

平成30年　8月17日

長崎県議会議長　様

長崎県議会議員　　下条　ふみまさ
長崎県議会議員　　松本　洋介
長崎県議会議員　　宅島　寿一

海外研修視察を実施しましたので、つぎのとおり報告いたします。

1 日程　　平成30年7月18日～7月24日

2 訪問国　オーストラリア（メルボルン・シドニー）

3 調査目的
・世界遺産登録後における具体的な課題対応策を調査し観光振興に活かす。
・IR（統合型カジノリゾート）の現場を視察し導入に至るまでの課題を調査する。
・国際交流の相手国としてのオーストラリアの現状について調査する。
・農業振興のために畜産業およびワイナリーの現地法人の現状と課題について調査する。
・堅調に人口増加および経済成長を続けるオーストラリアの政策について調査する。

4 調査事項
・世界遺産登録後に想定される課題等に対しての具体的な対策について
・IR(統合型カジノリゾート)における経済効果および課題に対する対策について
・教育における英語圏の国際交流先としての現状と今後の可能性について
・農業振興対策として現地法人企業の畜産業及びワイナリーに対しての取り組みについて
・産業振興対策としてオーストラリアの経済成長および人口増加の要因について

5 調査結果　　別紙報告書の通り

6 調査により得られた成果及び県政への反映方策
・今回の視察により、世界遺産については海外からの観光客に対してガイド対応などの多くの配慮がなされており、本県としても海外観光客への様々な対応策を策定する必要がある。
・自治体国際化協会においては、姉妹都市提携数が大幅に増加する現状に対して教育における交流が活発化していることについて、本県としても積極的に取り組む必要を感じた。
・IRについては、スタッフの人材育成の現場や運営における現場を視察したことで、雇用対策における人材確保に向けた取り組みを雇用創出に向けて取り組む必要性を感じた。
　また、現地IR運営企業の取締役と意見交換をして、本県への誘致に対する課題について意見交換することができた。
・現地邦人企業における畜産および牛肉の輸出について、最先端の大規模畜産経営を視察することにより本県の畜産振興に活かすことができる内容を聴取できた。

調査結果報告書

視察日	平成30年　7月18日～7月24日
視察日程	**7月18日（水）　1日目** 19:10　長崎発羽田行き　国内線にて空路　羽田空港へ 21:00　羽田空港　到着 22:20　羽田発シドニー行き　　空路シドニー空港へ **7月19日（木）　2日目** 8:45　シドニー空港着　入国手続き 12:00　シドニー発メルボルン行き　メルボルン空港へ 13:35　メルボルン空港着 15:00～17:00　IR　クラウンリゾート　視察 ケン・バートン（クラウンリゾート取締役） メラニー・ブロック（クラウンリゾート日本担当スタッフ） グレンジャー知子（通訳現地スタッフ）
視察内容	**1、クラウンリゾート** 「クラウン」はオーストラリア屈指の総合エンターテイメントリゾートであり、延床面積が51万平米、 年間1800万人ものビジターが訪れる。ホテルが3棟とカジノ、会議室、70軒以上のダイニング施設、 スパ、テニスコート、映画館、アミューズメント施設、高級ブランドのショッピングモールがある。 まずIRの運営にとって大変重要な人材育成について同企業の関連会社である「クラウンカレッジ」を訪問した。 クラウンカレッジは企業を母体とするRTO（登録職業教育・訓練期間）としてはオーストラリアで最大規模で 最も成功している教育機関であり、観光業におけるサービスやスキルの水準を維持・向上する役割を果たしつつ 従業員に向けてやりがいのあるキャリアに長期間携わるために必要となるスキルや知識を提供している。 3つの学科を運営しており①ホテルおよび飲食②ゲーミング③ビジネス　それぞれの分野における 専門プログラムを提供している。 施設としてはセキュリティやゲーミングのトレーニングルームのほか会議室、訓練生用実務レストランなど充実した 設備と経験豊かな講師が対応している。 次に依存症対策として世界で初めて設立された「ゲーミング支援センター」を視察 24時間体制でカスタマーサポートサービスが提供されており、経験豊富な責任あるゲーミング担当スタッフが 勤務していた。また心理士や牧師による支援サービスや24か国語に対応している。 依存症対策でのポイントは、まずは本人の意思によるところが大きいためメンタルのフォローが重要になってくる。 またリミットをつけることや家族へのフォローアップなど様々な依存症対策に取り組んでいた。 最後にクラウンリゾートの取締役であるケン・バートン氏とIRの長崎への誘致に向けて意見交換をした。 以前より日本の市場には関心があり日本の実情についての情報は持っていた。 そのなかで法案の可決後の対応について登録される3か所に長崎が入るのか不安要素として費用対効果を おっしゃっていたが、本県としては、既存のリゾート施設であるHTBリゾートがあることや、アジアからの観光客が クルーズ船を中心に近年増加傾向にあることを述べた。 IR誘致に向けての課題としては、委託契約期間を長期で契約しなければ厳しいという実情をうかがった。

視察日程	7月20日（金） 3日目
9:00～13:00	ワイナリー　ヤラバレー地区 ①イエリング ②デボルトリー ③シャンドン
14:00～17:00	世界遺産関連視察 ①ロイヤルエキシビジョン ②セントパトリックス大聖堂 吉田宏隆（メルボルン現地ガイド）
視察内容	2、ワイナリー　ヤラバレー地区 ①イエリングステーション ヤラバレーで最初にワイナリーを創業した1838年創業の老舗。ピノ・ノワールやシラーズのレゼルブで数々の賞を受賞している。創業当時の歴史ある建物を改装した天井の高いテイスティングルームではワインの製造だけではなく販売、飲食まで行っており、多くの観光客を集めていた。 ②デボルトリー 北イタリアからオーストラリアに移民として移り住んだデボルトリー家が創業したワイナリー。 家族経営ではあるがセミヨン種を使った貴腐ワインが有名で、多くのワインが販売されていた。 個人経営の苦労などをうかがったが、個人でも成功している実績は参考になった。 ③ドメイン・シャンドン フランスの有名シャンパンメーカー、モエ・エ・シャンドンが手掛けた大規模なワイナリー フランスと同様の方式で造られた「シャンドン」の工場を見学しシャンパンの製造の厳しさをうかがった。 3、ロイヤルエキシビジョンビル 王立博覧会ビルは1880年にメルボルンで開催された万国博覧会のために建てられた建物であり万博ビルとしては世界最古の建物のひとつである。19世紀に世界各地で開催された万博の歴史を伝える貴重な建造物として2004年にユネスコの世界遺産に、オーストラリアで初めて登録された。 王立博覧会ビルは街の中心部から北に位置し、周囲を美しいカールトン庭園に囲まれている。 この庭園も世界遺産のひとつである。1880年に万博で使われた後、1901年からは最初の英連邦政府国会議事堂として使われた。広々としたギャラリー（展示室）と美しくそびえるドームが特徴である。 ホール空間は現在でも各種イベントや展覧会、フェアなどの文化行事に利用されている。 世界遺産の管理としては庭園を維持管理しつつ、ホールにおいては文化行事で活用しており 維持管理だけではなく、地域行事にも活用されていることは理想的な世界遺産の活用であると感じた。 4、セントパトリックス大聖堂 セントパトリックス大聖堂は、オーストラリアのメルボルンにあるローマカトリックのゴシックリヴァイバル建築で その名はアイルランドの聖人パトリキウスに由来している。 1848年に聖アウグスチノ修道会が大聖堂計画を立て、植民地政府に陳情した 大聖堂である。ウィリアム・ウォーデールにデザインを依頼し、1939年に完成した。 一歩足を踏み入れると、水が流れるような静かな音が響き渡り、モザイクの床、ステンドグラスからの光がやさしく堂内を照らし、神聖な世界を演出していた。高い尖塔は、高さ103メートルもある。 雨樋にはゴシック建築を代表する素晴らしい彫刻のガーゴイルがついていた。 視察中にも多くの信者がお祈りをしていて、神聖な雰囲気が印象的であった。 本県の教会群もこのように維持管理できればと印象を受けた。

視察日程	7月21日（土） 4日目
9:00	空路、シドニー空港へ
10:30	シドニー空港到着
13:00～15:00	世界遺産オペラハウス 視察
16:00～17:00	自治体国際化協会シドニー事務所訪問 クリス 美香子（シドニー現地ガイド） 赤岩 弘智（自治体国際化協会シドニー事務所 所長） 谷本 貴則（自治体国際化協会シドニー事務所 所長補佐）
視察内容	5、世界遺産オペラハウス 視察
	デンマークの建築家ヨーン・ウッツオンの設計のもと、1959年から14年間の歳月をかけ、1973年に完成した。 6つの劇場、コンサートホール、レストラン等を保有する。貝殻をモチーフにした屋根のセイル型デザインは 柱がなくコンクリートブロック2000個をケーブルで引っ張ることにより建築した。建築史上最も困難な組み立て作業 だったと言われている。総工費は400億円（現在の価値では約800億円）と多額の費用がかかったが その対策として国が宝くじを発行し、その利益を建築費に充てたためわずか2年で資金回収ができた。 多くの観光客でにぎわっており、ガイドの対応もわかりやすくスムーズだった。また劇場があることもあり 地元の利用者も多く、大きな経済効果をもたらしていると感じた。
視察内容	6、自治体国際化協会シドニー事務所 視察
	自治体国際化協会シドニー事務所にて赤岩所長よりオーストラリアの政治・経済・社会情勢・国際交流について レクチャーを受けた。オーストラリアの面積は日本の20倍、人口は日本の20％であり広い国土と高い自給率 豊富な資源を有する。経済成長も著しく26年連続で毎年約3％の安定した成長を遂げている。 対日貿易については、輸出において80％が資源であり、輸入においては普通車が最も多い。貿易相手国としては 1位が中国、2位が日本となっており、今後のTPPの取り組みによっては、さらなる経済交流も期待できる。 人口については、毎年40万人もの急激な増加を遂げていて、特に人口の大半は東海岸の都市部に集中している。 多文化主義であり、人口の約3割は外国生まれである。人口構造においては中高年が多いつぼ型であり 高齢化率が15.7％となり日本の27.3％と比べるとかなり低くなっている。 オーストラリアでは州政府に憲法上最も広範な役割が与えられ、財政的、政策的には連邦政府に主導権が 移っており、地方自治に対する住民の期待と要求が近年高まっている。 国際交流においては、提携した姉妹都市がこれまで108件となっており、提携数は4番目に高い。本県においても 佐世保市と松浦市が姉妹都市を締結している。交流内容としては青少年交流が最も多く55.6％となっており 時差がない英語圏として語学教育に高い需要があっている。 またヘリテージといって歴史的建造物を指定して保護している。活用事例としては継続的利用だけではなく 複合利用や民間への転用など外観は変えずに活かす方法をとっている。 安定的な経済成長と人口増している民主主義国家であり、アジア太平洋地域の国として今後も日本の平和と 繁栄のためのパートナーとして大きな期待ができると感じた。
視察日程	7月22日（日） 5日目
7:00～17:00	世界遺産ブルーマウンテンズ 視察 クリス 美香子（シドニー現地ガイド）
視察内容	7、世界遺産ブルーマウンテンズ 視察
	シドニーの西約100km、標高1500mほどの山並みが続く一帯。ユーカリが茂る森が続き、ユーカリの油分が揮発し 一帯に青いフィルターがかかったように見えることからこの名前がついた。世界遺産登録されているのは、ブルー マウンテンズ国立公園を中心に7つの国立公園を含む103万haという広大な面積である。

	全世界のユーカリの13％に当たる約90種が見つかっている。 1850年代にはゴールドラッシュ、1870年代では石炭の炭鉱として栄えたシーニックワールドを視察した。 最勾配52度のトロッコ電車「シーニックレイルウエイ」で深い谷底へ下り、2億年前の太古の地形を有する レインフォレストと旧炭鉱跡を視察後、「シーニックケーブルウエイ」で崖上に上り、「シーニックスカイウエイ」にて ジャミソン渓谷の上空270mから1000m級の岩が3つ連なる奇岩群「スリーシスターズ」を視察した。 世界自然遺産としてのブルーマウンテンズは自然を保護しながらも様々な乗り物で広範囲の自然を見ることが できた。ガイドや外国語の対応も十分にできていた。多くの観光客に対応するにはホテルが足りないということもあり 民泊を地域で取り組んでいた。
視察日程	7月23日（月） 6日目
10:00～11:00	NHフーズオーストラリア株式会社　視察 金井　秀樹（取締役） 鈴木　博樹（エキスパートセールズ） アンドリュ・マクドナルド（エキスパートセールズマネージャー） ミシェル・ダビッドソン（ジェネラルマネージャー） クリス・ザウナジデス（マネージャー）
12:00～13:00	JTAオセアニア（旅行代理店）シドニー支店　意見交換 志村　一政（JTAシドニー支店　支店長）
15:00～16:00	在シドニー日本国総領事館　訪問 竹若　敬三（シドニー日本国総領事）
20:00	空路　羽田空港へ
視察内容	8、NHフーズオーストラリア株式会社　視察 オーストラリア東海岸を拠点に牛の肥育・処理・輸出を行っている日本企業を視察。オーストラリアにおける 畜産経営の現状についてレクチャーを受けた。ワイアラ牧場は1990年に地元企業より購入し運営開始。 5316haというオーストラリア国内でも最大規模の土地に50000頭の牛を肥育している。特にえさにこだわっており、 大麦・小麦を蒸気で蒸して独自のえさを作っている。また循環型農場として糞や尿を肥料に活用している。 加工処理工場であるオーキー工場ではワイアラ牧場からの牛を1日1000頭も屠畜し内蔵処理後枝肉に加工 される。また電子タグをつけることにより管理を徹底している。この企業ではPB（プライベートブランド）として 大麦牛として売り出している。この牛肉はオーストラリア産牛肉の持つ良質な赤身と日本人が好むやわらかさと 程よい油のコラボレーションを追求した商品となっている。 NHフーズオーストラリアにおける雇用は2000名であるが、日本の倍額の人件費がかかるのが運営上厳しいとのこと これまでの飼育で苦労したことは、牧場が広大すぎるために均一均等に供給するシステムをつくることであった。 オーストラリアからの輸出国は日本が30％オーストラリア国内が25％アメリカが20％となっている。 本県においてもスーパーエレナに納入している。今後のTPPにおける関税の撤廃によってはさらなる出荷も 期待できる。 9、JTAオセアニア（旅行代理店）シドニー支店　意見交換 本社香港の企業のシドニー支店長志村さんと海外からのインバウンドについて意見交換をした。 オーストラリアには毎年約70万人の観光客が訪れる。時差がない英語圏であり経済成長している国であるため 近年インバウンドもアウトバウンドも堅調に数字を伸ばしている。日本がオーストラリアからのインバウンドを 増やしていくために必要なことは「安い航空券、語学環境、wifi環境、アトラクション」とうかがった。

	10、在シドニー日本国総領事館　訪問 竹若総領事よりオーストラリアの現状についてレクチャーを受けた。 まず日本とオーストラリアの歴史について、1879年の万国博覧会の参加。1890年からは羊毛、牛脂、牛の皮を日本に輸出していた。1941年からの太平洋戦争において対戦したが、反日感情は強くはなく日本に友好的な国である。一人当たりのGDPは世界11位で日本の1.4倍になる。26年連続でプラス成長を達成する経済大国。物価と人件費が高いため、日本企業であるトヨタが撤退した。一方で労働者には手厚い労働環境である。 日豪間の旅行者数は、近年堅調に増加。2017年の豪州からの訪日観光客数は約50万人。平均宿泊数が13泊と長く、平均旅行支出額も22万6千円と首位中国に次ぐ。またリピーターが多い。 2015年にANAが羽田・シドニー便を就航し、現在JAL、ANA、カンタスの3社が日本・シドニー間の直行便を運行している。2017年9月にJALが成田・メルボルン間を就航、同年12月にカンタスが大阪・シドニー便を就航。 今年1月に日豪首脳会談が開催され安全保障や防衛について相互協力することで一致した。また経済交流や人的交流を活発化させることやTPPの早期の著名・発効についても一致した。 留学生の数は増加傾向にあり、特に中国からの留学生が占める割合が高く約32％である。 留学生の支払う学費は大学収入の約20％を占める。今後の日本の大学の経営にとっても留学生の招致は不可欠であると感じた。また親日国として日本語教育の需要が高く、日本語学習者は国内で約35万人と他言語よりも増加傾向にある。
視察日程	7月24日（火）　7日目
5:30	羽田空港着
7:00	国内線にて長崎空港へ
8:40	長崎空港着　解散

クラウンリゾート　取締役ケン・バートン氏　意見交換

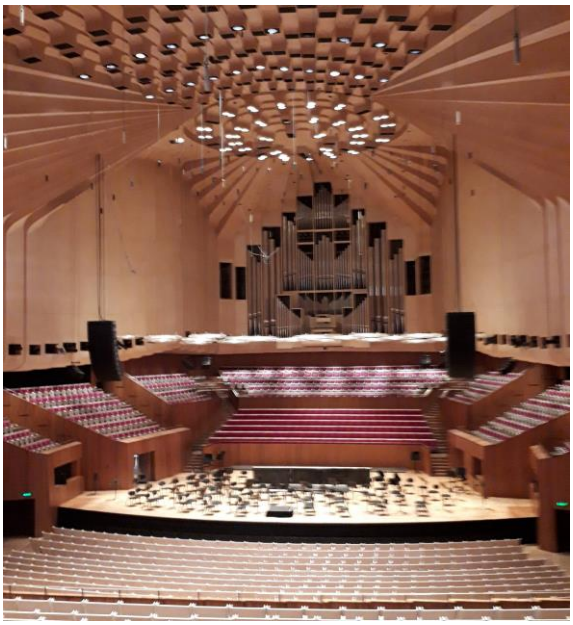
人材教育施設　クラウンカレッジ　視察

ワイナリー　ヤラバレー地区　視察

世界遺産ロイヤルエキシビジョンビル　視察

セントパトリックス大聖堂　視察

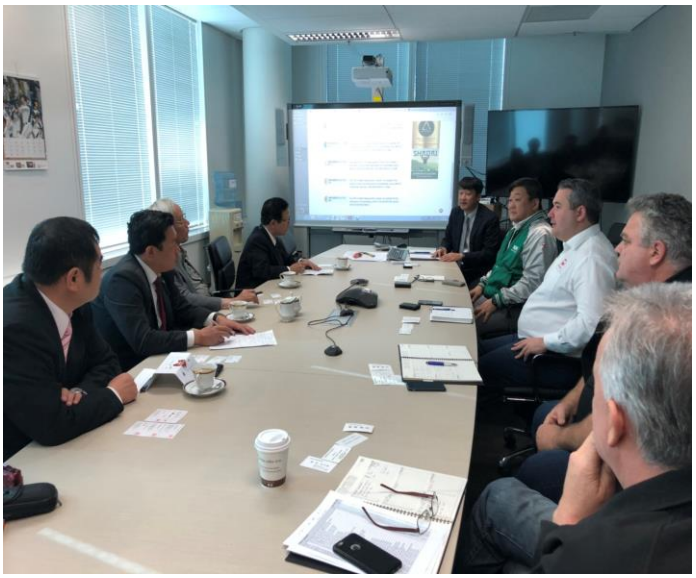
世界遺産オペラハウス　視察



自治体国際化協会シドニー事務所　視察

世界遺産　ブルーマウンテンズ　視察

NHフーズオーストラリア株式会社　意見交換



在シドニー日本国総領事館　意見交換